◆ **当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。**

ピコルのピアノ

KAWAI

EP300

取扱説明書

リセット方法

左端白鍵 2 つを押しながら
電源を ON にします。

《ごあいさつ》

このたびは、KAWAI EP300をお買い求め頂きまして、誠にありがとうございます。　本機では、鍵盤系の楽器の音色を3音色と管弦楽器系のアンサンブル音色を12音色内蔵しており手軽に色々な音色で演奏を楽しむことができます。
また、録音/再生機能，音に効果を与える機能を活用いただければ更に演奏表現は広がります。

本機の性能をフルに発揮させていただくとともに、いつまでも末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さるようお願い致します。

目次

1.各部の名称と働き 4

2.基本操作 6
　1) 音を出してみましょう。........................ 6
　　■音量の調整 7
　　■音色の選択 7
　　■デモ演奏 8
　2) 音色に効果を与えてみよう。........................ 9
　　■音にコーラス効果を与えます。........................ 9
　　■音にサスティン効果を与えます。........................ 9
　3) デュアル演奏 10
　4) メトロノーム 11

3.その他機能 12
　1) 録音 12
　2) 再生 13
　3) タッチの選択 14
　4) チューニング 15

■ 主な仕様 16

●同梱品

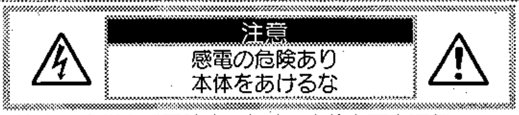
①本体/アダプター（PS-123D又はP.S-121D）/取扱説明書（本書）/保証書/ご愛用者カード（全て各1部）

②セット売りの場合は①に加えスタンド/椅子/組立説明書

③単体売りの場合は①に加え譜面立て

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています
製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。



注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

このマークは、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。
左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。
左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

警告

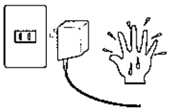
◆電源は、必ずAC100Vを使う

100V以外禁止

●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、ACアダプターを抜き差ししない

濡れた手で触らない



●感電の原因になります。

◆本機を落とさない

落とさない

●運搬の際は、必ず2人以上で運んで下さい。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止

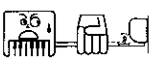
●聴力低下の原因になる恐れがあります。

◆本機を分解、修理、改造しない

分解禁止

●故障、感電、ショートの原因になります。

◆ACアダプターを抜くときは、コードを引っ張らない



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間ご使用しない時は必ずACアダプターを抜く

プラグを抜く

●落雷時に火災の原因になります。

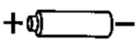
⚠注意

◆本機を次のような所では使用しない
- ●窓際など直射日光の当たる場所
- ●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
- ●戸外など極端に温度の低い場所
- ●極端に湿度の高い場所
- ●砂やホコリの多い場所
- ●振動の多い場所

使用禁止

●故障の原因になります。

◆電池は、「+」「-」を間違えないようにセットする



●思わぬ故障、液漏れの原因になります。
【乾電池仕様の場合】

◆電池は新旧混ぜない

●思わぬ故障、液漏れの原因になります。
【乾電池仕様の場合】

◆電池は長時間使用しないときは外す

●思わぬ故障、液漏れの原因になります。
【乾電池仕様の場合】

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う

電源を切る

●本機や接続機器の故障の原因になります。

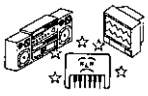
◆本機の内部に異物を入れないようにする

異物を入れない

●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない

他電気機器から離す



●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆ACアダプター、接続コード類はからまないように接続する

からまないようにする

●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

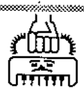
◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない

ベンジン／シンナー禁止

●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機の上に乗ったり、圧力を加えない

上に乗らない



●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。

■保証書について

●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

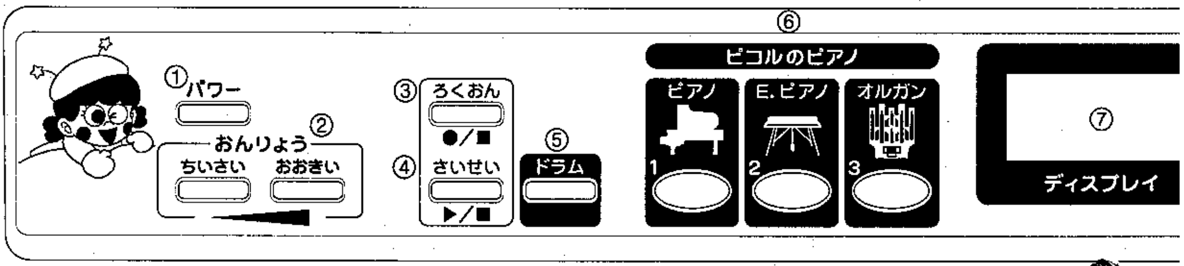
■修理について

●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1.各部の名称と働き

本機に付いている、ボタンなどの位置とその機能を説明します。

◆前面



①パワー
電源をON/OFFするスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。(Page...6参照)

②おんりょう
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。"おおきい"側は音量が大きくなり、"ちいさい"側は音量が小さくなります。(Page...7参照)

③ろくおん
自分の演奏を録音するときに押します。(Page...12参照)

④さいせい
録音した演奏を聴くときに押します。(Page...13参照)

⑤ドラム
鍵盤でドラムの音を鳴らすとき押します。(Page...8参照)

⑥ピコルのピアノ
鍵盤楽器の音色（ピアノ/Eピアノ/オルガン）を選択するときに押します。(Page...7参照)

⑦ディスプレイ
音色ナンバーやその他の状態を表示します。

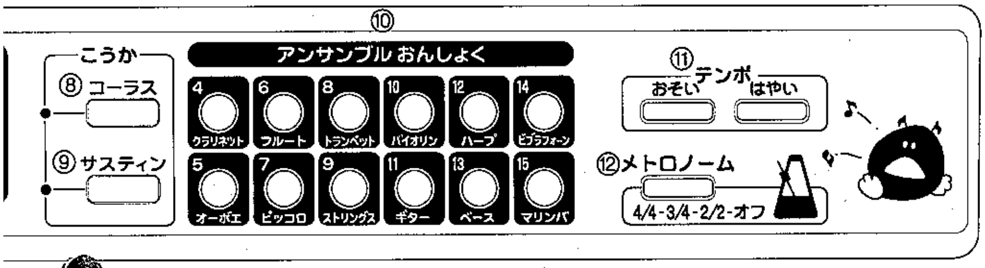
⑧コーラス
音にコーラス効果を加えたいときに押します。(Page...9参照)

⑨サスティン
音を伸ばしたいとき押します。(Page...9参照)

⑩アンサンブルおんしょく
管・弦・打楽器の音色を選択するときに押します。(Page...7参照)

⑪テンポ
メトロノームのテンポ、再生曲のテンポをかえるときに押します。(Page...11/13参照)

⑫メトロノーム
メトロノーム音を鳴らし、拍子を設定します。(Page...11参照)



◆後面

⑬EXP.PEDAL（エクスプレッションペダル）
別売のエクスプレッションペダル（V-20X）を接続すると足で音量の調節ができます。

⑭DAMPER PEDAL（ダンパーペダル）
別売のフット・ペダル（F-1）を接続します。
ペダルを踏んで鍵盤を弾くと音が徐々に減衰していく効果が得られます。

⑮STEREO PHONES（ステレオヘッドホン）
別売りのヘッドホン（SH-5,SH-2など）を接続する端子です。

⑯DC IN 12V
電源アダプターの端子です。
付属の電源アダプター（PS-123D又はPS-121D）を接続します。

2.基本操作

1) 音を出してみましょう。

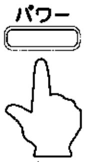
ここでは、色々な音でキーボードを弾くまでの説明をします。

◇**操作 1**

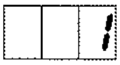
付属のACアダプターを下図のように本体裏側とAC100Vのコンセントに差し込みます。

◇**操作 2**

"パワー" ボタン を押して電源を 入れます。



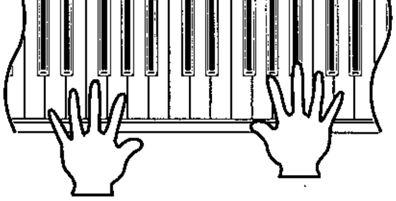
電源を入れると音色 No.1 のピアノの音色が選ばれます。
ディスプレイに音色ナンバーが表示されます。



◇**操作 3**

鍵盤を弾いてみましょう。

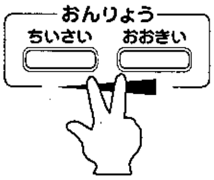
鍵盤を弾けば　ピアノの音色が鳴ります。



■音量の調整

◇操作 4

2つの"おんりょう"ボタンで、音量を調整します。



0～15の間で音量の値を設定できます。
ディスプレイには、その値が表示されます。

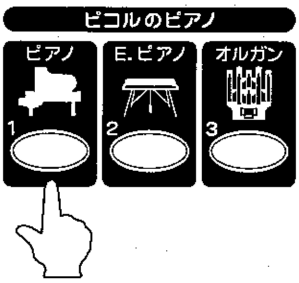
■音色の選択

◇操作 5

好きな"おんしょく"ボタンを押して、音色を設定します。

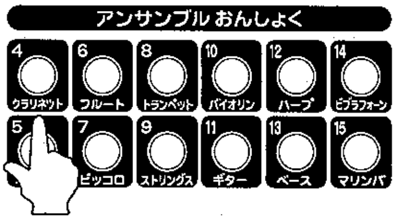
このキーボードには、鍵盤楽器の音色「ピコルのピアノ」3音色と管・弦・打楽器の音色「アンサンブルおんしょく」12音色と「ドラム」音色の合計16音色あります。

■ 「ピコルのピアノ」音色　(1～3)



ピアノの音色を選択する場合は、左図の様に
"ピアノ"ボタンを押します。
ディスプレイに音色ナンバーが表示されます。

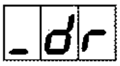
■ 「アンサンブルおんしょく」音色　(4～15)

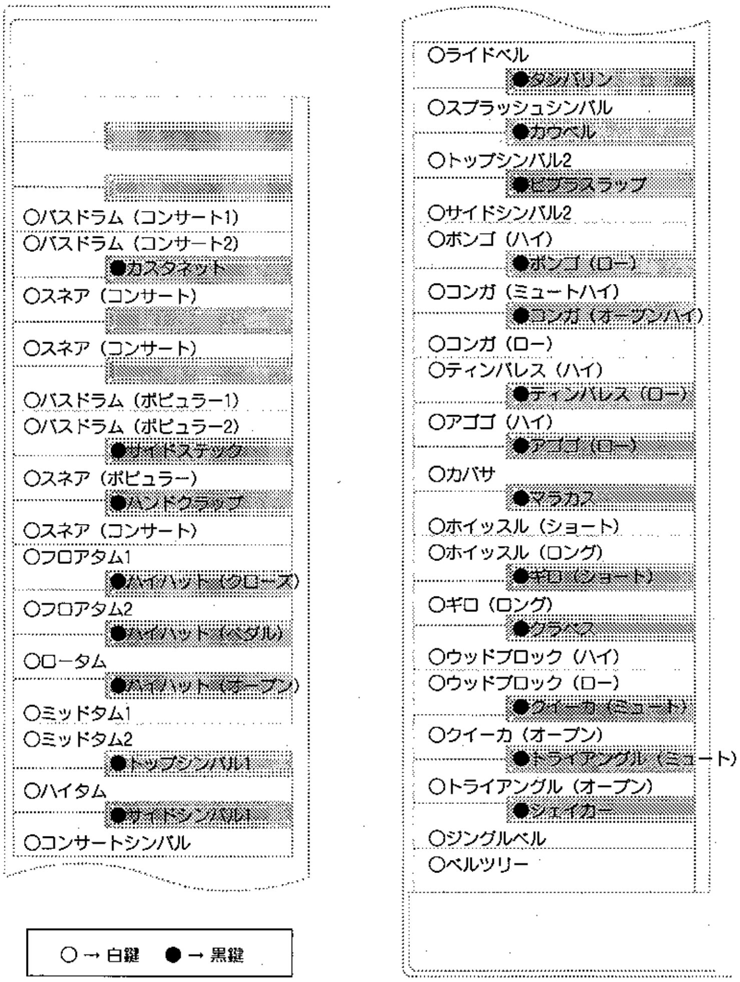


クラリネットの音色を選択する場合は、左図の様に
"クラリネット"ボタンを押します。
ディスプレイに音色ナンバーが表示されます。

■ 「ドラム」音色

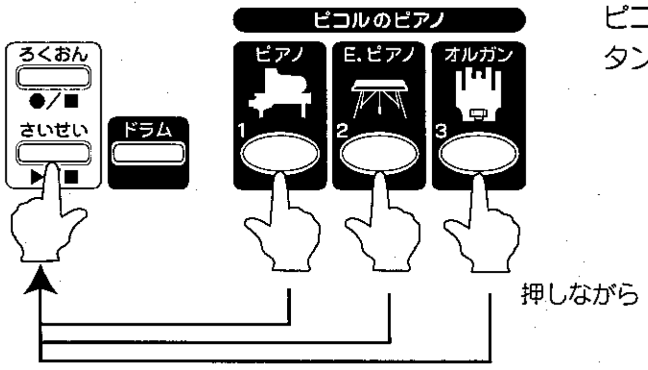
ドラム音色の場合、各々の鍵盤に色々なドラムの音色が振り分けられます。
"ドラム"ボタンを押します。
ディスプレイには左図が表示されます。





■デモ演奏

本機には、オリジナルのデモ曲が3曲内蔵されています。



ピコルのピアノボタンを押しながら再生ボタンを押します。

2) 音色に効果を与えてみよう。

このキーボードでは、音色にコーラス / サステインという効果を与えることができます。

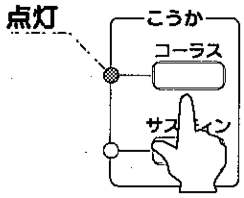
■ **コーラス　：音に広がりを加える効果です。**

■ **サスティン　：音に伸びを与える効果です。**

■音にコーラス効果を与えます。

◇操作 1

"コーラス" ﾎﾞﾀﾝ を押します。



ボタン左のランプが点灯します。

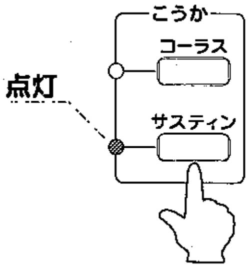
◇操作 2

再度、"コーラス" ﾎﾞﾀﾝ を押して解除します。

■音にサスティン効果を与えます。

◇操作 1

"サスティン" ﾎﾞﾀﾝ を押します。



ボタン左のランプが点灯します。

◇操作 2

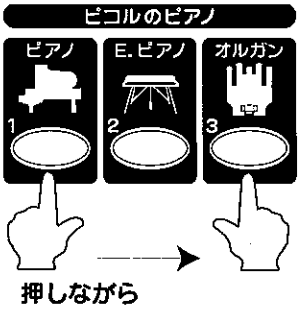
再度、"サスティン" ﾎﾞﾀﾝ を押して解除します。

3) デュアル演奏

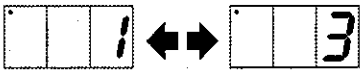
2つの音色を重ね合わせてデュアル演奏が楽しめます。
2つの音色を同時に発音させることにより、演奏に独特の厚みを与えることができます。

◇操作 1
2つの音色ボタンを同時に押します。

■ピアノとオルガンの音を重ね合わせる場合

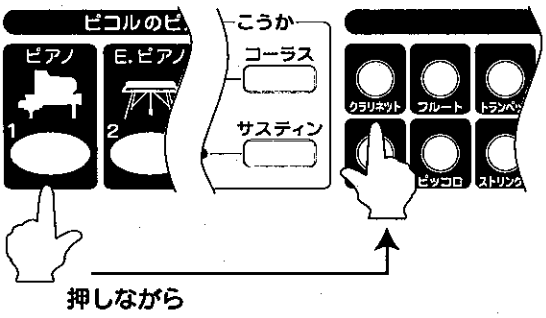


"ピアノ"ボタンを押しながら"オルガン"ボタンを押します。
ディスプレイは、2つの音色ボタンを交互に表示します。

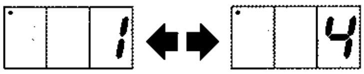


交互に表示

■ピアノとクラリネットの音を重ね合わせる場合



"ピアノ"ボタン押しながら"クラリネット"ボタンを押します。
ディスプレイは、2つの音色ボタンを交互に表示します。



交互に表示

◇操作 2
鍵盤を弾いてみましょう。

鍵盤を弾けば選択した2つの音色が重なって発音されます。

◇操作 3
デュアル演奏の解除は、音色ボタン をどれか1つ押します。

その押した音色が選択されると同時にデュアル演奏の設定が解除されます。

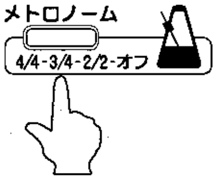
4) メトロノーム

メトロノームを使って練習をしましょう。

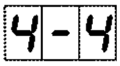
■ メトロノームの発音とテンポ設定。

◇操作 1

"メトロノーム" ﾎﾞﾀﾝ を押します。

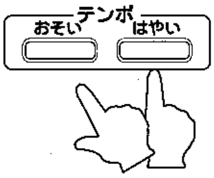


4/4 拍子のメトロノームが発音します。
ディスプレイには、その拍子が表示されます。



◇操作 2

"テンポ" ﾎﾞﾀﾝ を押してテンポの早さを設定できます。

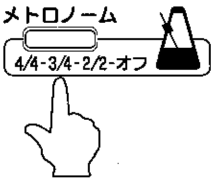


"テンポ" ﾎﾞﾀﾝで、テンポを ♩ =40 ～ 250 の範囲で設定できます。
"おそい" ﾎﾞﾀﾝを押すとテンポは遅くなり、"はやい" ﾎﾞﾀﾝを押すとテンポは速くなります。それに合わせてディスプレイ左上の点滅の速さが変わります。
ディスプレイには、そのテンポ値が表示されます。

■ メトロノームの拍子設定とストップ。

◇操作 3

"メトロノーム" ﾎﾞﾀﾝ を押す度に『→4/4→3/4→2/2→OFF→4/4→』の順で設定ができます。



"メトロノーム" ﾎﾞﾀﾝ を押す度に、ディスプレイにその拍子が表示されメトロノームが発音します。

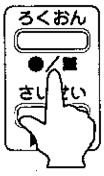
3.その他機能

1）録音

このキーボードでは、自分の演奏を１曲だけ録音し再生することができます。

◇操作１

"ろくおん" ﾎﾞﾀﾝ を押します。



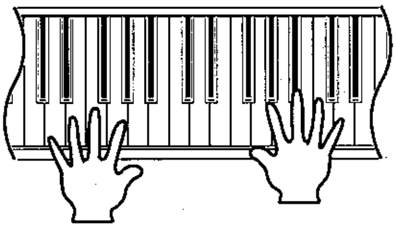
"ろくおん" ﾎﾞﾀﾝ を離すとディスプレイは下図の表示となり、録音待機状態となります。

メトロノームに合わせて録音演奏する場合は、前ページの操作に従ってメトロノームを鳴らしてください。

◇操作２

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

（さいせい ﾎﾞﾀﾝ を押しても録音を開始できます。）

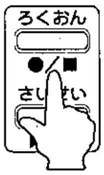


鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。

録音中の音色変更／テンポも記憶されます。

◇操作３

演奏が終わったら、再度 "ろくおん" ﾎﾞﾀﾝ を押して録音を終了します。



ディスプレイは下図の表示をした後、音色表示に戻ります。

2) 再生

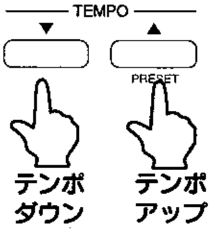
録音した曲を再生します。

◇*操作 1*

"さいせい" ﾎﾞﾀﾝ を押します。

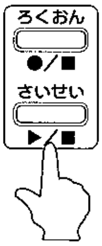
録音されている演奏が再生されます。

"テンポ" ﾎﾞﾀﾝで、テンポ変更できます。
"おそい" ﾎﾞﾀﾝを押すとテンポは遅くなり、"はやい" ﾎﾞﾀﾝを押すとテンポは速くなります。



◇*操作 2*

再度、"さいせい" ﾎﾞﾀﾝ を押せば、演奏は停止します。



ボタンから手を離すとディスプレイには、下図が表示されます。

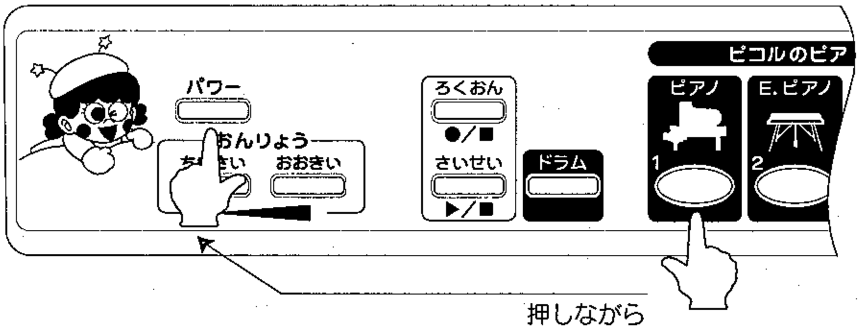
3) タッチの選択

通常、アコースティックピアノは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
このような、鍵盤を弾く力と音量の関係をタッチといいます。

このキーボードでは、アコースティックピアノのタッチと鍵盤を弾く力に関わらず、一定の音量で発音させるタッチの2種類を選択することができます。

◇操作1

"ピアノ"ﾎﾞﾀﾝを押しながら電源を入れます。



上の操作を繰り返す度に、タッチを交互に切り替えることができます。

ここでの設定は、電源を切った後でも記憶されており、次回電源入れたときも前回の設定したタッチのままです。

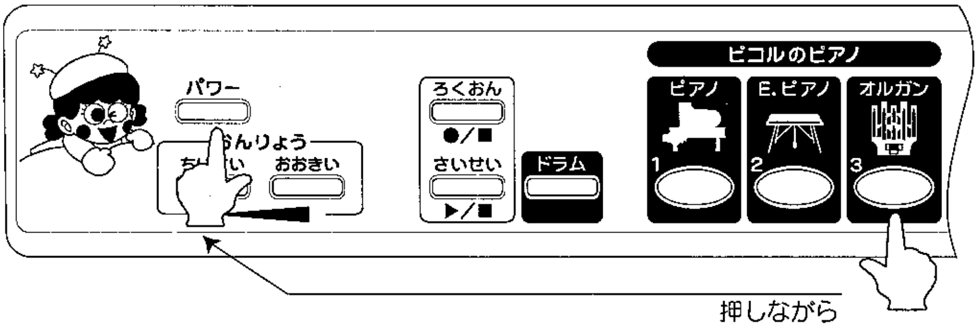
工場出荷時は、タッチレスポンス無しの状態となっています。

4) チューニング

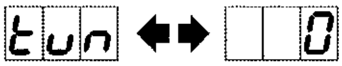
チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに使います。

◇操作 1

"オルガン" ﾎﾞﾀﾝ を押しながら、電源を入れます。



ディスプレイに下図のように表示され、チューニング調整可能な状態であることを示します。



交互に表示

◇操作 2

"おんりょう" ﾎﾞﾀﾝ を押して値を設定します。

ちいさい ﾎﾞﾀﾝを押せば低く移調し、おおきい ﾎﾞﾀﾝを押せば高くなります。
1.5625 セント単位で -32 ～ +31 の範囲で設定できます。

設定が終わったら、一度電源を立ち上げなおしてください。

ここでの設定は、電源を切った後でも記憶されており、次回電源入れたときも前回の設定したチューニングのままです。

■ 主な仕様

■ 鍵　盤	61鍵
■ 発音数	最大28音
■ 音　色 （15+ドラム音色）	ピアノ、エレクトリックピアノ、オルガン、 クラリネット、オーボエ、フルート、ピッコロ、トランペット、ストリングス、 バイオリン、ギター、ハープ、ベース、ビブラホン、マリンバ、ドラムセット
■ 効　果	コーラス、サスティン
■ その他の機能	ボリューム、チューン、デュアル、タッチ選択（ノーマル、オフ）、メトロノーム
■ レコーダー	1ソング、総記録容量　約500音
■ メトロノーム	4/4、3/4、2/2拍子
■ 外部端子	ヘッドホン、ダンパーペダル、エクスプレッションペダル
■ 電池仕様	単2乾電池6本
■ 出　力	2.5W×2
■ スピーカ	10cm×2
■ 定格電圧	AC100V、50/60Hz
■ 消費電力	7.0W
■ 寸　法	［W×D×H］912×306×96（mm）（単体）
■ 重　量	4.4Kg（単体）
■ 付属品	【単体売り】 取扱説明書（本書）、譜面立て、ACアダプター（PS-123D又はPS-121D）、保証書 【セット売り】 取扱説明書（本書）、ACアダプター（PS-123D又はPS-121D）、保証書 スタンド、椅子、スタンド/イス組立説明書

9803S
Printed in Japan

株式会社河合楽器製作所
電子楽器事業本部
〒430-8665　浜松市寺島町200番地
TEL.053-457-1277 / FAX.053-457-1279

音楽教室の先生方へ

―― EP300 の取扱いについて ――

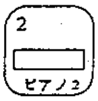
1 ティーチングモードについて

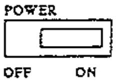
ティーチングモードとは、ピアノ・基本音色 NO.1 -- NO.5 のみが選択できる状態のことです。
アンサンブル音色のボタンは押しても無効になります。

2 ティーチングモードの設定方法

EP 200 では、電源を入れる度にティーチングモードになるように設定することが出来ます。
EP 200 の音色ボタンの NO. 2 ピアノ 2 を押しながら 電源スイッチを ON にして下さい。

* 一度この操作を行なうと、以降は電源スイッチを ON にする毎に ティーチングモードになります。

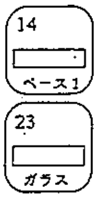


を押しながら


電源を ON にします。

◆ 他の音色 (アンサンブル音色) を選びたいときは

ティーチングモードの状態で 音色ボタンの NO.14 ベース 1 とNO.23 ガラス のボタンを同時に押すと、ティーチングモードではなくなり 基本音色以外の アンサンブル音色も選択できるようになります。

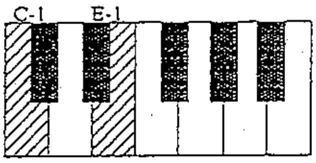


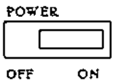
を同時に押します。

この状態は、電源を OFF にするまで続きます。
再びティーチングモードにしたいときは、本体の電源を切ってから もう一度電源を入れなおして下さい。

ティーチングモードの設定解除

◆ 電源を入れたときティーチングモードにならないようにするには
鍵盤の一番左側のドとミ (C1 , E1) を同時に押しながら電源スイッチを ON にして下さい。これで、電源を入れる度にティーチングモードになることはなくなります。



を押しながら


電源を ON にします。